

『雪像づくり』

雪の世界に触れることで、自然への感性を高めることが期待できます。また、雪を楽しみながら造形することを通じて、創造性や忍耐力を高めるとともに、作品を完成させることにより、大きな達成感を味わうことができます。

【時期】 12月下旬～3月上旬

※ただし、天候や積雪状況により、実施できない場合がある。

【活動場所】 中庭

【所要時間】 1～2時間

*職員による指導はありません。

【対象】 幼児以上

【準備】 (個人) 雪の活動に適した服装、手袋、帽子、長靴、ネックウォーマー、汗ふきタオル、マスク

(団体) 救急バック、その他団体が必要と考える物

(自然の家) スコップ、シャベル、バケツ、雪玉作り器

【展開例】

1. 雪の中での活動に適した服装で集合する（集合場所は調整）。

2. 構想を考え、雪を集めて固める。

3. スコップで大まかな形に削る。

* 厳寒期の日高の雪はサラサラの粉雪で、くっつきにくいので、バケツに雪と水を合わせてシャベット状のものを作ると接着作業がしやすくなる。

4. 活動終了後、活動場所の原状復帰をする。

5. 協力して用具等の後片付けをする。

・バケツやスコップの数を確認し、破損箇所が無いか確認してから返却する。

【指導上の留意点】

1. 開始前に天気予報を確認する。

2. 使用する前に、用具の個数と破損部分が無いか確認する。

3. 倒れると危険なので、平らな場所に作らせる。積雪量に応じて、大きさも考慮する。

4. スコップ、シャベルなど先端が鋭利な道具を使うため、使い方と予測される危険を指導する。

5. 天気が良い日は、動かなくても予想以上に体温が上昇する場合がある。このため、こまめな体温調整が必要となる場合がある。

6. 休憩と健康確認を行い、水分補給をこまめにとるようにする。

※動物の糞など衛生的に問題があるので、雪で水分を補給しないようにする。

7. 作品は1人1つ作り、となり同士の間隔を2m程度あける。

【参考】 ◎特別活動 ～校外の豊かな自然に触れる体験を通して、学校における学習活動を充実発展させる。

教科との
関連

◎図画工作 ～用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができる。